

福井県作業療法士会ニュース **見える！伝える！繋がる！**

**CONTENTS**

- 巻頭言 ..... 1
- 第11回福井県作業療法学会のご案内… 2
- 万里一空 ..... 3
- 地域包括ケア人材育成研修会開催報告… 4
- 5年ぶりの高校生作業療法体験について… 5
- リレー随筆 ..... 6
- 幅広い分野でご活躍されている  
作業療法士のご紹介 ..... 7
- 新入会員紹介 ..... 8

# すいせん

**巻頭言**

## 2025年度から新生涯学修制度が始まります！

一般社団法人 福井県作業療法士会 教育部理事  
日本赤十字社 福井赤十字病院

**樋田 貴 紀**



**【今の生涯教育制度って、どんな制度ですか？】**

今の生涯教育制度は、基礎研修制度、認定作業療法士制度、専門作業療法士制度の3つがあります。基礎研修制度には、「現職者共通研修、選択研修、MTDLP基礎研修」があります。各研修を受講し申請することで基礎研修修了証が発行されます。

**【何が変わりますか？】**

生涯教育制度は、**生涯学修制度**になります。大きな変更点は、基礎研修制度が「**登録作業療法士制度**」になることです。登録作業療法士（以下、登録 OT）とは「標準的な作業療法を実践できる能力を有する作業療法士である」と協会が認定した方を指します。前期・後期計5年間の研修を通して、登録 OT を目指します。詳しい制度内容については下記図、協会 HP を参照してください。

一般社団法人日本作業療法士協会 新たな生涯学修制度「選ばれる作業療法士を目指して」



●新生涯学修制度の構造図（作業療法士協会 HP より）

**【どうすれば登録 OT になれますか？】**

現在、2024年までの入会者が、登録 OT になるためにできることは、①「現行の基礎研修を受講すること。」②「臨床実習指導者講習会を受講し修了すること。」です。今後、具体的な登録 OT への読み替え申請が2027年4月から開始されます。

作業療法士協会からは、**2027年4月までに基礎研修を修了する**ことが推奨されています。少なくとも、基礎研修制度の一つである現職者共通研修を修了しておくことで、読み替え申請がしやすくなりますので、会員のみなさん各自の履修状況の確認をお願いします。

**2025年新入会者から、生涯学修制度が開始**されます。福井県士会では、現行の生涯教育制度が未修了の方を対象に、2025年に現職者共通研修会、事例検討・報告会を開催予定です。2027年までの期間中に基礎研修を修了されたい方は是非参加してください。福井県士会員用の質問フォームも設けています。疑問がある方はいつでも質問を受け付けています。お気軽にご連絡ください。



●生涯学修制度ページ



●福井県士会 質問フォーム

## 第11回 福井県作業療法学会のご案内

# 第11回 福井県作業療法学会

## ～作業療法で未来を Design する～

第11回福井県作業療法学会 学会長  
春江病院 リハビリテーション課

正 真 康 宏



第11回福井県作業療法学会を令和7年3月2日(日)にサンドーム福井で開催することとなりました。

今、世の中はCOVID-19の世界的流行や世界各地での紛争、地震や豪雨などの自然災害、物価の高騰など激動の時代を迎えています。私たちの生活をとりまく環境は大きく変化し作業療法士をとりまく環境もまた大きく変化しています。高齢者への対応から始まった地域包括ケアシステムの構築はその地域に住む子供から高齢者まですべての住民を対象とした地域共生社会の実現という概念が加わり、作業療法士もそれぞれの地域が抱える課題を把握しどのように貢献できるか考えていかなければなりません。これに対して日本作業療法士協会は第四次作業療法5か年戦略で「人々の活動・参加を支援し、地域共生社会の構築に寄与する作業療法」をスローガンとし「作業療法士が地域のさまざまな場において、地域に根ざしながら、専門職間のつながりはもとより、そこでともに暮らしている健康な人・障害のある人を含む老若男女すべての人を対象に、作業に焦点を当てた支援や調整によって、人とのつながり、人と社会のつながりを創り出し、人々の健康と幸福を促進する」ことを最上位目的としています。県内では多くの作業療法士が医療、介護、保健、福祉、教育などそれぞれの分野で日々作業療法を実践し活躍しています。作業療法士が地域で役立つ専門職であることを示し地域共生社会の構築に貢献することは喫緊の課題と考えます。

一方で作業療法士の働き方に対する考え方も変化してきています。医療や介護の分野だけではなく保健や福祉、教育、研究、企業など作業療法士の職域が広がり、これまでのように病院や施設に定年まで勤めるといった考え方は変わりつつあります。皆さんも働く中でこのまま定年まで作業療法士として働き続けるのか？と疑問や不安を抱くことがあるかと思います。また、出産や育児などライフステージの変化やワークライフバランスの考え方により働き方へのニーズも多様化しています。そのなかで自分の作業療法士としてのキャリ

アデザインに悩み、未来に不安を感じる方もいるのではないのでしょうか。

そこで、今回の学会のテーマを「作業療法で未来を Design する」としました。「Design」という言葉には「設計する」や「計画する」という意味があり、「人・ユーザー・社会にとって価値のある目的を見出し、それを達成できるモノゴトを計画し、他者が理解できる仕様として表現する、この一連の行為（ウィキペディア）」などと定義されています。これは作業療法が対象者の生活で価値のある作業を見出し、目標を達成するために作業療法の知識、技術をすべて活用して計画をたて実践する一連のプロセスと同じです。今回のテーマには2つの思いを込めました。1つは作業療法士がそれぞれの分野で活躍し対象者の生活や地域の未来を Design して地域社会に貢献していきたいという思いです。もう1つは作業療法士自身のこれからのキャリアデザインを考える機会になってもらいたいという思いです。今回、特別講演では元廣惇先生をお招きして作業療法士のキャリアデザインについてお話し頂く予定です。元廣先生は株式会社 Canvas を創業し作業療法の視点を活かした企業の健康経営事業を展開しつつコンサルティングや講演活動など様々な分野でご活躍されています。また、セラピストのキャリアデザインについての書籍も出版されており今年度の作業療法ジャーナルの「特集 作業療法士の多様なキャリアの在り方」の企画を担当されています。他県での学会や研修会などでもキャリアデザインについてのお話を多数されており、みなさんがキャリアデザインを考えるうえで参考になるのではないかと思います。

今学会ではその他にも教育セミナーや演題発表、認知症カフェなど皆さんの今後に関わる企画を実行委員一同全力で準備しております。

ともに学び、ともに考え、明るい未来を Design しましょう。

たくさんの方の参加をお待ちしております。

# 万里一空

「万里一空」と題し、県士会の各ブロックにおいて活躍されておられる方々をご紹介させていただきます。「万里一空」とは、「ひとつの目標に向かって努力し続けること」、「目的、目標、やるべきことを見失わずに励み、頑張り続けること」という意味を持っています。県士会活動の魅力の一つに、様々な方と繋がりを持てることがあります。各ブロックで活躍されている方々を知って頂き、繋がりを持つきっかけになりますと幸いです。  
(編集部)

## 坂井・奥越ブロック



あわらし市金津雲雀ヶ丘寮

### 川崎みずえ

県士会では地域活動推進部として、主に研修会やイベントの開催、学会運営等の活動を行っています。先日行われた研修会では、DWAT（災害派遣福祉チーム）で活躍されたOTの講演を聞き、とても興味深く、OTとしての役割や今後の課題について、改めて考えさせられる機会となりました。県士会活動を通し、それぞれのフィールドで働くOTの仲間と交流することは、新しい発見や想いを共有できる喜びがあり、OTになってよかったなと思える場になっています。

自分自身、日々の業務にあたる中で様々な困りごとに直面します。そういった時、気軽に相談し合える県士会仲間の繋がりがとてもありがたく、大切に感じています。県士会活動での経験や学びは、新たな分野に興味をもつきっかけにもなり、自分自身の可能性がぐんと広がります。経験年数等関係なく、OTの仕事がもっと好きになり、共に学び合える仲間がどんどん増えていくことを願っています。

福井県OTの輪を広め、これからも共に悩みながら、楽しく高め合っていきましょう。

## 福井ブロック



医療法人健康会 嶋田病院

### 小野島麻美

私と県士会との出会いは、作業療法士として働き始めてすぐに先輩に連れられて参加した学術部の会議でした。当時の私は、恥ずかしながら県士会がどのような活動をして、どのような役割があるのか全く理解していない状態でした。積極的に意見を出したり、主体的に仕事を担えてはいなかったと思いますが、職場以外の作業療法士の方々と仕事やプライベートな話をしたりするのがとても刺激的で楽しく参加した事を覚えています。

現在は職能部で活動をさせてもらっています。1年間の研修予定の管理や企画、講師への依頼・交渉、当日の運営などを担って行っています。部長や理事を務めて、引っ張って下さる方に任せきりになっていて申し訳ないと思いますが、ようやく少し意見を出せるようになりました。出産・育児に伴い、活動を休止させていただき期間もありましたが、ライフスタイルに合わせて今後もできる活動を続けていきたいです。

## 丹南ブロック



社会医療法人寿人会 木村病院

### 松浦 有紀

訪問リハビリから回復期病棟に配属となり1年が経ちました。コロナ禍の数期間は入院患者様の外出泊はもちろん、家屋評価は中止となりました。そのため、感染症が和らいだ現在もどうしても退院支援に苦渋している若手も多い印象です。そこで、『在宅復帰を支援する力』をつけるためにソフトランディングチームを各病棟と訪問のリハビリスタッフで立ち上げ、活動をしています。

このチームでは、退院後に利用できるサービスや福祉用具、家屋評価等の研修会、退院に向けての症例検討や退院後に当院の訪問リハビリサービスを利用した方のフィードバック等を定期的に行っています。研修会を通して、講師や様々な職種の参加者から得る新しい情報や意見を知識として取り入れていくことで、入院から自宅での安定した生活へ緩やかな移行を目指し、包括的に支援できるよう努めています。

また、地域包括ケアシステムの考え方が主流となっている現在、病院所属のOTが在宅復帰後の生活をしっかりと見据える必要があります。今後も県士会活動に参加し、在宅復帰を支援する力を養い、地域包括ケアシステムの足掛けになるよう医療と介護のスムーズな連携に努めていきたいと思っています。

## 二州・若狭ブロック



敦賀ケアセンター かくだ

### 生水 隼人

県士会活動の中で、令和三年にOT連絡部会（トップミーティング）に参加させていただきました。現在の県士会のあり方についてグループディスカッション内で意見交換をしていく中で、中堅層である我々が、県士会はもとより、作業療法士の地位向上に繋がるよう努めていかなければならないと感じました。

私は二州圏域にて活動をさせて頂いております。二州圏域のOT職間では、顔の見える関係作りが出来ていると感じていますが、なかなか嶺北・若狭地区の仲間たちとの馴染みが無いのが正直な感想です。

是非これからの時代を担う若手の先生方、積極的に県士会の活動に参加して頂き、たくさん仲間を作って頂きたいです。仲間が増えることで、困った時でも力になってくれる人が増えます。また、自分の専門分野以外の研修等に参加することで、新しい視点が見えることもあると思います。そして皆さんの県士会員が活動に参加できるようなコンテンツ作り等も大事になってくるかと思っています。微力ではありますが、私に出来ることがあれば、協力させて頂きたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。

# OT に対して追い風が吹いている今、動き出そう！

一般社団法人 福井県作業療法士会 地域包括ケア推進部理事  
医療法人厚生会 福井厚生病院

水上 保孝



2024年12月1日(日)福井厚生病院にて開催しました、2024年度第1回地域包括ケア人材育成研修会～ステップアップ研修について、ご報告致します。今回の研修は、講師に谷川真澄先生(有限会社なるぞ代表取締役)を講師にお招きして、「地域包括ケアから地域共生社会へ求められるOTになるために」と題し、講義およびディスカッション形式の研修を開催致しました。

研修内容として、①自立支援・介護予防が必要となる背景②総合事業の充実化や高齢者を含めた多様な主体的な参画を促す、地域共生社会の実現・地域の活性化について③日本作業療法士協会市町村担当者配置事業(市町村担当者)について④重層的支援体制整備事業について⑤5歳児健康診査への参画へ向けた取り組みについて、ご講義をいただきました。

自立支援・介護予防の背景については、皆様もご存知のように、少子高齢化による生産人口の減少、一人暮らし高齢者が増加、国の社会保障費の増大、介護人材不足、ビジネススクアラーの増加、介護認定者は軽度者が多い、などが挙げられています。諸外国ほどではないが、日本でもさまざまな要因による健康格差問題があると言われる中で、「健康寿命を2-3年延伸していく社会をつくる」ことが急務となっています。また、地域共生社会の実現に向けて、高齢者がさまざまな機会に・さまざまな場所で・さまざまな役割を担う、いわゆる「活動・参加の場」が必要となってくるのが予想されます。動機づけや活動・参加に焦点が当てられるOTはまさに打ってつけの職種ではないでしょうか。～追い風が吹いていると思いませんか？～

ん?! この記事を読みながら、

“そうなのかもしれないけど、私のところまでその追い風が吹いてきていない!!”

そのように思われる方はいらっしゃいますか(笑)?!

もしかすると、まだ吹いてきていないと思われる方は多いのかもしれませんが。OT全体に追い風を感じてもらうためには、「爆風」くらいの追い風にする必要がある

のかな、と思っています。でも、爆風にするには、皆様のところに“追い風”が吹いてきた時に、一人一人がその追い風をさらに大きくしていくために主体的な行動をしていくことが必要かと思います。また、地域共生社会の実現には、いわゆる“地域(在宅領域)”といわれる場所で活躍されている方だけでなく、全体作業療法士の約7割が活躍されている病院などの医療領域の方の活躍が必要であると思っています。今、活躍されている領域・場所で求められている課題(例:所属施設内での業務改善への対応・施設外で出席を求められている会議や講師依頼への対応など)に対し、皆様それぞれの立場の中で課題があらうかと存じます。一つ一つ前向きに取り組んでいただき、歩みを進めていけたら幸いです。

また、今回の研修の目玉であった市町村担当者配置事業については、県内各市町村の地域性やソーシャルキャピタルなどが違うため一括りにはできませんが、県士会として取り組むべき体制整備や市町村担当者が担う具体的な役割の明確化など、ソフト面での整備を行なっていく必要があります。県士会からトップダウン的に行うべき事項もあれば、逆に会員または各市町村担当者から県士会へ挙げてもらうボトムアップ的な事項も必要かと思っています。双方向からの取り組みを行うことで、より充実した配置事業を創り上げていくことができると考えています。皆様がそのような活動ができるように、会長や三役とも相談し、県士会の地域包括ケア推進を担う部の理事として、さらに前に進めていきたいと思っています。

今後会員個々に対し、地域包括ケアシステム・地域共生社会に関する内容(重層的支援体制整備事業や5歳児健康診査への参画など、様々な新規事業も含めて)について、皆様への情報発信を広報誌、ホームページ、メール配信、SNSなどの様々な広報媒体を使って行っていきます。

～OTに対して追い風が吹いている今、動き出そう!～  
今後ともよろしくお願い致します!

# 5年ぶりの高校生作業療法体験について

一般社団法人 福井県作業療法士会 広報部部长  
医療法人 高村病院

山田 託巳



## 1. はじめに

今回、約5年ぶりに高校生の作業療法体験を各病院、施設で行うことが出来ました。5年前にCOVID-19が世界中に蔓延し、色々な行事等が行えなくなり、高校生の作業療法体験も開催が見送られていました。その後少しずつCOVID-19が落ち着き、規制も緩和し、色々な行事や病院・施設の面会が可能になってきたため、今年になり、高校生の作業療法体験をすることができました。

## 2. 作業療法体験

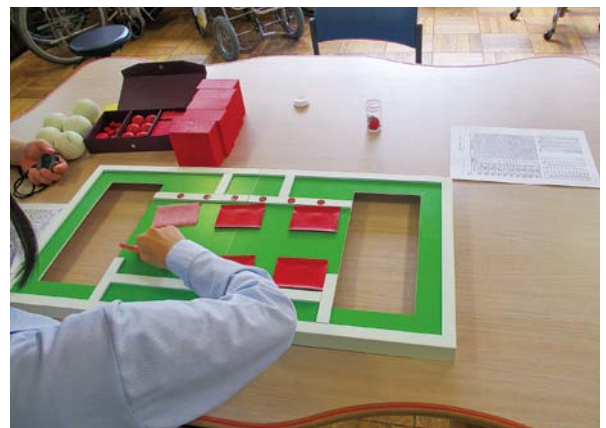
作業療法体験ではまず、高校生に作業療法についてのアンケートを行いました。作業療法士を知ったきっかけとして家族から知る人が多く、高校生体験の参加の理由として、医療関係に興味があった人が多いようでした。また見学を通して知りたいこととして、「どんな人が向いているか」「どんな勉強をするのか」が多かったです。アンケートが終った後は、資料を見せながら作業療法や学校生活について説明しました。その後体験では、実際の患者様の治療見学、認知検査や上肢機能の評価体験、自助具作成・体験、デイケア利用者様との交流等を行いました。

見学後は、「身体を動かすだけでなく、コミュニケーションをとることの大切さを知れた」や、「患者様に寄り添いながらリハビリを行うことの大切さを知るこ

とが出来た」という声が聞けました。また体験を通して、「リハビリのある大学に進もうと決めた」や、「作業療法士という仕事がよく分かって魅力を感じた」、「早く作業療法士になりたい」との声もありました。

## 3. まとめ

ここ数年はCOVID-19蔓延中であったため、広報部として大きな活動が出来ていない状態でした。そのため、今回高校生の作業療法体験をすることが決まった際には、久しぶりの大きな活動に対する期待感と、問題なく実施できるかという不安感がありました。今回の高校生の作業療法体験を通して、作業療法士の認知度や、作業療法士に対してのイメージを知ることができたこと、高校生の現状を聞いたことは、今後の広報部の活動で生かせることが多いと感じました。また、体験をした高校生の多くから、「作業療法士になりたい」、「リハビリの大学に行ってみたい」との声も聞けて、体験を実施して良かったと思えました。将来に対して早い段階から決めている高校生も多かったため、今後は、高校生だけでなく中学生に対しても、このような活動を行っていきたいと考えております。将来の選択肢の中に、「作業療法士」という道を見つけてもらえるように活動を続けていきたいと思えます。



特別  
企画

## 福井県作業療法士会の足跡を辿る

—役員経験者から会員に向けたメッセージ—

今回のリレー随筆は、福井県高次脳機能障害支援センターの大嶋さんに執筆頂きました。大嶋さんは当士会の理事や事務局長を歴任され、県士会活動に長年携わってこられました。ご活躍される中で感じてこられた県士会活動の意義や、自己の成長への繋がりについても執筆頂きました。本稿を読んで頂きます皆様にも、今まで以上に県士会活動の意義を感じて頂けますと幸いです。

(編集部)

## 第9回

## なんとなく なんとなく

一般財団法人 新田塚医療福祉センター 福井総合病院 大嶋 康介



リレー随筆企画が始まってはやくも9人目。前回執筆された吉村先生よりご指名をいただき、役員時代のご恩返しになればと思い快く引き受けさせていただきました。

さて、私自身の話をしますと、福井総合病院に就職して18年目。「回復期」→「老健」→「急性期」→「外来」→「回復期」と渡り歩き、現在は県の委託機関である福井県高次脳機能障害支援センターに出向しています。“なんとなく”流れに身を任せつつ、色々な経験ができたなぁと感じています。

実は、私の県士会活動の始まりもそんな感じでした。就職したばかりで県士会が何かも分からない頃に、職場の先輩に軽く声をかけられ、福利部部員になりました。そのうちに、その先輩は県士会理事になり、私は福利部部長を任されました。部長になってしばらくした頃に役員改選があり、先輩に「次の理事よろしく！」と軽く声をかけられ、県士会理事となりました。理事になってからは、福利部担当→財務部担当→事務局長と、これまた流れに身を任せながらいくつかの役職を経験しました。

こうして“なんとなく”関わり始めた県士会活動でしたが、役員として作業療法を考える機会が増え、様々な作業療法士が“作業療法”という仕事を確立し続けるためにその情熱と労力を惜しみなく注いでくれているという事実を目の当たりにしました。もちろんその根底には現場で患者さんを少しでもよくしてあげたいという想いがありますが、その情熱を注ぐ機会や

活躍する場を失わないために、県士会活動や協会活動が重要であることを実感した瞬間でした。その後、残念ながら個人的な理由で県士会役員の職は辞しましたが、現在も財務部部員としてできる範囲で関わらせてもらっています。

何が言いたいかといいますと、頼まれた仕事を断るな！とか、先輩のいうことを聞け！などという時代錯誤な話ではなく、遠くからでは“知らないこと・大変そう”に見えることでも、近くで関わってみると物事の本質が見えたり、日ごろ接することの少ない大先輩や他施設のOTとのつながりができたり、県士会の課題と向き合うなかで得た経験が自分の仕事の糧（技術や知識など）になっていることに気づけたり、県士会活動を続けたことが作業療法士としての視野を広げてくれていたということです。

まだ県士会活動に関わる機会がない方や県士会活動の意義が見いだせない方も、ぜひ関わってみてください。なんとなく始めたことでも、自分の意思とは少し違うきっかけでも、関わり続けているうちに「自分の成長」を実感できる時が来ると思います。もし、いま実感がもてなくても、関わり続けることで作業療法士としての成長の糧になること、県内で活躍する仲間の作業療法士を守る一役を担っていることは事実です。

先輩に声をかけられた、同期の友人に誘われた、なんでもいいと思います。なんとなくのきっかけを大切に、みんなで福井の作業療法をDesignしていきましょう！

幅広い分野で

## ご紹介されている 作業療法士のご紹介

県士会員の中には、作業療法士の資格を活かして幅広い分野で活躍されている方々がおられます。今回ご紹介させて頂く岡本さんは長年精神科領域でご活躍され、勤務されておられる病院では理事長補佐兼総務部長として病院のマネジメントにも携わっておられます。本稿では、作業療法士として培ってこられた技術や学びを組織運営に活かしてこられた経緯や、心理的柔軟性の高め方、今後の展望について執筆頂きました。皆様にも、組織内で自身の能力の活かし方について再考頂くきっかけとなれば幸いです。

(編集部)

### 組織マネジメントにおける心理的柔軟性のススメ

医療法人 嶺南こころの病院 岡本利子



私は現在、病院の理事長補佐兼総務部長（＝事務長）を拝命し、病院の経営、マネジメントに携わっています。当院の理念「ともに考えいきる力を育もう」を基盤に役職者で病院の方向性「患者・家族・地域から信頼される病院になる、ここで働いて良かったと思う組織になる」を決め、今年度は「チームをつくる」という目標に向け動いています。

「チームをつくる」に込めた思いは、個々人がやらされ感でなく自分ごととして同じ目標に向かって協力する部署となることで、そのためには所属長の対話力（お互いの立場や状況、考えの違いを知り、意見をすり合わせて目標に向けたより良い行動を見つけること）が必要となります。対話力をどのように学習するか、役職者のグループで大変さをどう分かち合うか、最近はそのようなことを企画するのがとても楽しくやりがいを感じています。

このようにマネジメントを楽しめるようになったきっかけは「岡本さんの120%の患者愛を職員に向けたらいいのでは」という後輩の言葉でした。職員へ愛を向けると一人一人が自分にとって大切な存在となり、その人たちを支援することが私にとって面倒なことから大切なことになりました。行動分析的に言うと負の強化から正の強化へと行動の機能が転換したこととなります。また、そもそも理事長補佐という重責を担おうと思えたのは行動分析を基盤とする第3世代の認知

行動療法 ACT (Acceptance & Commitment Therapy) を学んだことにより自身に心理的柔軟性がそこそこ身についたかなと思ったからでした。ACTは、不安や怒り等の不快な感情をもちながら自身の価値（大切な人やことがら）に向かう行動ができる力（＝心理的柔軟性）を高めます。役職に就いた当初、不甲斐ない自分を労り組織にとって必要な行動を選択できたのは、いつも頭に ACT MATRIX（行動分析図）があり、自分を俯瞰的に観察していたからだと思います。当院では臨床ではもちろん、職員、特に役職者には度々紹介しているツールです。

次年度で作業療法士になり30年となります。精神科一筋できた私は集団精神療法や認知行動療法等その時々で必要な技法を学びました。それらの技術が企業カウンセリングや組織マネジメントといった新たな臨床の場を広げ、今は自組織のマネジメントに活かしています。知識を得ることとさることながら、学習の場で尊敬する師や深く本音で語り合える様々な職種の仲間と対話をしてきたことも心理的柔軟性を高めることに繋がりました。言いにくいことでも言い合える雰囲気（心理的安全性）を育むためにはまずは管理職の心理的柔軟性を高める必要があります。当院の部長間にある心理的安全性を確実に管理職に、そして組織全体に広げられるよう今後も実践を重ねていきたいと思っています。

# FRESHERS2024

新しい仲間を紹介します！

- ①出身校
- ②勤務先
- ③作業療法士を目指したきっかけ・理由は何か？
- ④尊敬している人とその理由を教えてください。



しらい よしみ  
**白井 喜実**

- ①福井医療大学
- ②公立丹南病院
- ③家族・高校教諭から勧められ、福井医療大学を見学し OT に興味を持ったため。
- ④リハビリセラピストとして働いている皆さん。日々研鑽に励み地域社会へ貢献する姿を尊敬している。



たが あかり  
**多賀 朱里**

- ①福井医療大学
- ②特定非営利法人 きっすりリハビリテーションサポート
- ③知人に OT の仕事の話を聞いて、いろんな分野で活躍できることに魅力を感じたから。
- ④母 いつも優しく、柔軟な考え方をもっているところ。



しもまき さくら  
**下牧 桜**

- ①福井医療大学
- ②一般財団法人 新田塚医療福祉センター 福井総合病院
- ③叔母が理学療法士をしており作業療法士のことを知り目指すきっかけになりました。
- ④母 いつも私が挑戦したいことに賛成してからそばで応援してくれているから。



あらい まい  
**荒井 麻実**

- ①京都橘大学
- ②日本赤十字社 福井赤十字病院
- ③母親がリハビリを受け回復して行く姿をみて OT に興味を持ちました。
- ④両親 強い意志を持ってどの場面においても日々努力を重ねている姿に尊敬します。



いしだ きょうか  
**石田 杏果**

- ①大阪医療福祉専門学校
- ②杉田玄白記念 公立小浜病院
- ③高校生の時に職業紹介でこの仕事を知り目指すことになりました。
- ④友人 成長を追求する向上心の強い人だからです。



ますやま ちほ  
**増山 千穂**

- ①福井医療大学
- ②独立行政法人 国立病院機構 あわら病院
- ③祖母が以前リハビリの仕事をしており、やりがいの仕事であると感じたから。
- ④母親 何事にも真面目で常に向上心があるところを尊敬している。



福井県作業療法士会  
**Instagram**  
登録・ご活用下さい

**登録方法について**

- ① Instagram の無料アプリをダウンロード。  
▶ iPhone の場合は、[App Store] から  
▶ android の場合は、[Google Play] インストール。
- ② インストール後、「新しいアカウントを作成」して下さい。

フォローはこちら



@FUKU\_OT

新人さんからベテランの方、  
たくさんのフォローを  
お待ちしております！

**編集後記**

一般社団法人 福井県作業療法士会 編集部理事 清水 雅浩

会員として、県士会活動に参加することのメリットは何か。この質問をここ数年で何度か耳にした。私にとって県士会活動は、『大切なつながりを通して自己実現を図ること』である。私達は人とのつながりの中で喜びや生きがい、愛情を見つけ、それを基にして生きていく。人とのつながりがあるからこそ「感謝」が生まれ、「助け合い」や「貢献」「自己実現」がある。

アフリカのことわざ「早く行きたいなら一人で、遠くへ行きたいならみんなで行け (If You Want To Go Fast, Go Alone. If You Want To Go Far, Go Together)」ということわざがあるが、我々福井県作業療法士会も『より遠くへ、より早く進んでいく』ことが望まれる。是非みんなで、つながりを感じながら進んで行きましょう。



一般社団法人 **福井県作業療法士会**  
<https://www.fuku-fuku-ot.jp/>

〒910-0101 福井市つくし野2丁目107番地  
TEL: (0776) 55-7001 FAX: (0776) 55-7002